

【出席率】 会員63名中48名

【先々週の出席率】 91.53%

【先週のメイクアップ】

12/10 馬場年度地区運営会議へ
馬場信彦君 蕪澤喜一郎君 野島廣一郎君
荒澤威彦君 佐藤栄祐君 野中 悟君
船久保孝志君 野崎正明君 田代徳太郎君
星野健司君 吉田秀治君 大久保秀男君
大原義弘君 木原 崇君 鈴木 武君
長谷川晴生君 佐藤嘉男君 安達 裕君
松崎孝史君 馬場一敏君 佐藤秀夫君
齋藤嘉一君 丸田肇一君



会長挨拶

吉井 正孝 会長エレクト



今日は、坂本会長がご欠席という事で、代わってご挨拶を申し上げます。

私は映画が好きで、還暦を迎えシニア割引でどの映画でも1,000円で鑑賞できますことから、月最低一回の割でワーナー・マイカルへ出かけます。その時は、大体女房と一緒になのですが、時には観る映画が異なり、先に観終わった方が喫茶店で待っている事もあります。

一昨日の土曜日は、女房と一緒に映画を観ました。観た映画は、2004年10月23日、中越沖地震の折、大きな被害を受けたあの山古志に題材をとった「マリと子犬の物語」でした。この映画の紹介文を、劇場で貰ったパンフからご紹介してみますと・・・

国際ロータリー会長

ウィルフリッドJ. ウィルキンソン [カナダ]

第2560地区ガバナー 渡辺 敏彦 [新潟南]

第4分区AG 藤井 三明 [分水]

会 長 坂本 洋司

幹 事 船久保孝志

S A A 大 溪 秀 夫

事 務 局

〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫本店内

☎0256-35-3477 Fax 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL <http://www.sanjo-minami.jp>



2004年10月23日、午後5時56分。

新潟県中越地方を震源として、マグニチュード6.8の地震が起きました。“新潟県中越地震”と名づけられたその地震により、闘牛や錦鯉の産地として名高い山古志村(現・長岡市)も非常に大きな被害を受けました。その山古志で、失意の底にいた人々を勇気づけた

奇跡のエピソードがあったのです。

地震の当日、3匹の子犬を出産したお母さん犬の“マリ”。地震が起こり、人々が全て非難した後、荒廃した自然の中にたった1匹で我が子を守り、16日後に3匹の子犬とともに無事に戻ってきたマリの姿は大きな感動を呼びました。その“我が子と生き抜いた”姿は、地元の被災者を勇気付けただけでなく、中越地震復興の大きな励ましとなりました。

この実話を描いた絵本『山古志村のマリと三匹の子犬』（文藝春秋刊）は、小中学生を中心に話題になり、12.5万部（07年6月現在）のベストセラーとなります。この原作をもとに、新潟県及び新潟県長岡市、三条市の全面協力のもと、映画『マリと子犬の物語』は撮影されました。

昨年の11月、たまたま復興が進む「山古志」に行く機会がありました。

山古志村入口の蓬平温泉の「和泉旅館」が、ちょうどリニューアル・オープンを迎えられたばかりの頃でした。報道関係者の車に同乗して、普段は入れない工事現場の最前線まで見せて貰いました。「激甚災害」の指定を受け、国や県、総がかりの復興作業の凄さに驚いたものでした。車を降り、休眠中の「闘牛場」に向かって歩いていくと、ちょうどこの映画の製作スタッフが、シナリオ・ハンティングの為、現場を訪れた帰り道に遭遇し、ここ「山古志」をテーマに映画を作るんだ・・・という事を知り、この映画の完成を心待ちにしていたひとりでした。

私は昔から動物好きで、これまで、いろんな動物と付き合ってきました。その度、家族に迷惑をかけたかかも知れません。

犬は勿論の事。猫・ひよこ・鳥・カメ・金魚・・・と、いろいろですが、犬は拾った子犬が13年。貰った子犬も12年。拾った子猫は6年間と、みんな長生きしてくれました。

拾った子猫が、私の枕元のバスケットの中で5匹の子どもを産み、2匹は死んでしまいましたが、3匹はその親がしっかり育て、その子が1歳を迎えた頃、それぞれ「独立」していきました。

夜店で5円で買ったヒヨコは「鶏」になって、その恩返しに、朝早くから時を告げるのには近所の手前大いに困りました。また同じ、夜店の金魚すくいの金魚約30匹は、みんな大きくなって「コイ」になり、池をつぶした時、ご近所に全員貰われて行きました。石カメも大きくなったので八幡様の池に放しました。小鳥はカゴを掃除した折、空遠く逃げて行ってしまいました。

私が三条を離れていた6年間は、唯一、我が家にペットが居なかった期間で、結婚して3人の子どもがそれぞれ大きくなった頃「情操教育」に再び犬を飼い始めました。その頃流行った小型のコリー。洋犬のシェルティで「タケル」と名付けました。この子が10歳で病気で死に、暫くして、また犬を飼い始めています。今の子は満7歳でコーギー犬、「ヤマト」と言います。前の犬の名を足して「ヤマト・タケル」になります。また再び犬を飼うことがあったら、今度は「ミコト」と名付けようか・・・と密かに考えている私です。

1月のお祝い

会 員 誕 生

1日	飯山勝義君	1日	馬場信彦君
2日	坪井正康君	3日	平松修之君
5日	野中 悟君	7日	草野恒輔君
8日	丸田肇一君	14日	佐藤秀夫君
25日	吉田 衛君		

夫 人 誕 生

1日	吉田スミエ（秀治）さん	2日	荒澤政子（威彦）さん
2日	田中秀幸（悌司）さん	3日	馬場淑子（信彦）さん
4日	馬場和子（茂夫）さん	7日	佐藤政子（栄祐）さん
9日	渡邊ノリ（光郎）さん	10日	永桶シイ（栄資）さん
11日	天田敏子（匡）さん	23日	星野敏江（健司）さん

* * おめでとうございます * *

一週間の振り返り・・・心とほほえましいお話をBOXに

ニコニコボックス

～ 12月10日 27,000円 今年度累計 481,000円 ～

- 吉井君 坂本会長代理です。
坂井範夫さん卓話、鈴木圀彦さんスマイル、いづれもご苦労様です。
- 船久保君 坂井範夫さん、卓話楽しみにしています。
- 馬場(信)君 12/8(土)、VIPに於いて馬場年度第1回の地区運営会議を開催致しました。
57名の出席でした。特に蕪澤地区幹事、鈴木武筆頭副幹事には資料作成で大変お世話になりました。また、当日、司会の長谷川晴生さんには明るく、切れの良い司会を務めていただき、有難うございました。
- 吉田(秀)君 5日、6日、7日と老妻孝行で備前・信楽の窯元を廻ってきました。
- 田中(久)君 今年も残すところわずかになりました。どうか心残りのない年末でありますように。
- 丸山(征)君 坂井さんの卓話「金物業界」楽しみにしています。
- 西巻君 寒くなりました。坂井さん、卓話ご苦労様です。楽しみです。
- 相田君、飯山君、石山君、木原君、佐藤(秀)君、滝口君、田代君、坪井君
野崎君、広岡君、丸山(徹)君、若井君
坂井範夫さん、卓話ご苦労様です。楽しみにしています。
- 田中(悌)君、銅冶君、馬場(一)、武藤君、渡邊(光)
BOXに協力致します。
- 鈴木(圀)君 ボックス委員会の鈴木です。ご協力有難うございました。

卓話

「金物業界について」

坂井 範夫 会員

金物業界と言っても、扱っている商品により6～7種に分かれております。中国でも金物は「五金」と言って五種あるという意味です。

小売屋さんを見て同じ様に感じておられるでしょうが、主力販売品で分かれております。三条でも土木・建築は西村さん、電材等は古沢さんとか大枠で分かれております。

しかし、今のガソリンスタンドのルーツは金物屋が多いというのも、何でも扱っていた業界だからです。今では、ワーク品販売業と言って作業服も売っている業種も出て来ました。これはトビ職とかカリワク関係の職人さんが多くなっている為です。

業種の第一は、三条の間屋さんが多く関係する利器工匠具です。三条と兵庫県の三木で一番多くの問屋があります。扱う商品が多いのと戦後一貫して建築が良かったのでまだ多くの問屋があります。しかし、零細業者の多いのも特徴です。

主に建築に関連する金具、工具、鋸等が主力ですが、鋏とか包丁も扱っております。扱う商品種としては一番多い業種です。

工具屋ですが、主に工場で使う工具等を売っているのですが、切削工具等はハイスとかダイヤがついた高額の商品が主力となっているので売上も多いようです。以前は業界でも良くない業界と言われていましたが、今は軒数も減って、また、世界へ出た日本のメーカーはもとより外国のメーカーも多く使っているようで、そういう得意先を持っている業者は良い業績を残しているようです。

次に建築金物ですが、一部利器工匠具とバッティングしていますが、建築時で使う金具、鍵、換気口、インテリア品、内装・外装品を扱っております。昔はこの業界に家具金物も混在しておりました。昔は戸車、レール等がよく売れ、私もこの業界にいたのですが、一甲50kg位の重さの甲を毎日運んだものです。



また、二次製品屋というのは、名の通り、鉄の二次製品を扱っていて、波板、トヨ金物、屋根金具、鉄線、釘等が代表的品種です。今はほとんどホームセンターへ移っているのではないのでしょうか。

金物とはちょっと違うようですが、砥石屋というのもありました。名は砥石ですが、工具、利器工匠具業界と表裏一体の業界です。今でも売れる砥石は変わっていますが、鉄、石等を切るのに多く使われています。

また、利器工匠具の中でも包丁、鋏等で今でも少数ですが、営業しております。

ホームセンターが日本に進出してもう35年位になるので、今までの業種を全部網羅して、品揃い、値段、サービスで圧倒し、今の金物屋はダウンしております。

また、通販、ネット販売も伸びてきており、今までのルートも大幅に変化し、金物屋という何年も変わりにくく売っていた商品も、今では、今年春売れた品が秋には売れないという衣類と似たような変わりようです。

最後に器物屋と言われるナベ、カマの業界で、三条では、パール金属さん、燕ではほとんどの商社ですが、日本国内の人口を相手にするので売上は多いようです。しかし、大手でやっていかないと成り立たない業界です。何しろ相手が量販店、ホームセンターですから、三条の金物屋は地元の金物が売れた時は良かったのですが、今は地元の商品は全体の20~30%でしょうか。残りは、他産地の商品と中国製品等で売上げとなっております。

地元、地方合わせての商品のマージン率も大幅に下がっていて、このまま行くと、今ある組合に入っている軒数の約230軒も大幅に減ってゆくと思います。

そこで、どうしたら良いのか、なかなか名案がないのが現状です。

どの業界も同じ様な環境と思いますが、残ってゆくと思えるのでしょうか。それも見えないのが実状です。

ウィルキンソンRI会長からのメッセージをお届けします



2007年12月

親愛なる友人の皆さん

J. エド・マックロウリン元RI会長は、1960年国際ロータリー一年次大会で自らの考えを次のように述べられました。

「毎朝、私たちは、『時間』という名の銀行から86,400秒を与えられます。毎夜、その日が終わりを告げるとき、賢明な目的に投資できなかった秒はすべて失われます。秒数は繰り返されることがなく、また、借り越すこともできません。その日に使うことができなかった秒数は一生失われてしまうのです」

国際理解と親善を推進し、飢えに苦しむ人たちに食べ物を与え、読み書きの能力と教育という贈り物を分かち合い、医療サービスを充実させ、寝たきりの人を世話するなど、素晴らしい方法で、世界中のロータリアンが毎日、与えられた一秒一秒を捧げています。

「ロータリーは分かちあいの心」を実践する方法は数限りなくあります。

2008年の始まりを間近に控えた今、与えられた時間、才能、そしてリソースを生かすことができるかを、私たち全員で考えようではありませんか。

充実した新年を迎えられますよう、心よりお祈り申し上げます。

ウィルフリッド・ウィルキンソン
ジョーン・ウィルキンソン

